



日常の景色にある SDGsを 見つけてみる

世界共通の目標である「持続可能な開発目標 (SDGs)」について、「なんだか遠い世界の話のように聞こえる」という声も耳にします。でも、亀岡の暮らしの中に、たくさんの SDGs を見つけることができます。

例えば、市内に無料の給水スポットが増えていることを知っていますか？今年10月には、参加者が市内でマイボトルに給水した量を記録して、削減できたペットボトルの本数を競う企画を市が開催していたことを覚えている人もいるのではないのでしょうか。



農作業の合間の水分補給もSDGsとつながります(撮影=江見彩香)

マイボトルを持ち歩くことで購入するペットボトルを削減できれば、廃棄物の発生を大幅に減らすことなどを目指す SDGs のゴール 12「つくる責任 つかう責任」の達成に貢献します。

ほかにも、プラスチックも含めた海洋汚染の防止などを掲げるゴール 14「海の豊かさを守ろう」の達成にも貢献する可能性があります。なぜかとい

うと、大阪湾につながる保津川に、もしペットボトルが捨てられてしまったら、海に流れ着いてしまうかもしれないからです。

今回はペットボトルを切り口に考えてみましたが、目を凝らしてみると、ほかにもたくさんの SDGs が日常の暮らしの中で見つかるはずですよ。

文章

高木 超 (たかぎ・こすも)

▶ 慶應義塾大学大学院
政策・メディア研究科 特任助教
亀岡市参与 (SDGs アドバイザー)

写真

江見 彩香 (えみ・あやか)

▶ 元ファインダー女子広報部
女子学生による亀岡のPR隊
“ファインダー女子広報部”
(2018-2019) として活動。
現在、プロのフォトグラファー
を目指し奮闘中！

